

令和5年度 第2回 日野市農業懇談会 要点録

日時 令和5年4月24日(月)午後2時~4時 日野市役所5階507会議室

出席者 11名

- 1 会長 旗野 利之 日野市農業団体連合会会長
- 2 委員 齊藤 江利子 市民公募者
- 3 委員 帆足 千栄子 市民公募者
- 4 委員 阿川 暁史 日野市農業団体連合会副会長
- 5 委員 土方 京子 日野市女性農業者・みちくさ会会員
- 6 委員 岩沢 宏 日野市農業委員会会長
- 7 委員 金子 峰男 日野市農業委員会会長職務代理者
- 8 委員 宮坂 幸仁 東京南農業協同組合日野支店長
- 9 委員 土方 勇二 東京南農業協同組合七生支店長
- 10 委員 野瀬 友利 東京都農業振興事務所農務課長
- 11 委員 菊池 豊 東京都南多摩農業改良普及センター所長

欠席者 1名 会長職務代理者 宮澤 和美 市民公募者

事務局：吾郷都市農業振興課長、渡辺農産係長、担当者幅岸

1. 開会 (司会：農産係長)

都市農業振興課長より挨拶、資料の確認。

(議事進行：旗野会長)

2. 市長への提言書(案)の決定・・・資料No.①

(事務局) 資料①の説明

本日は前回(第1回4/10)まとめた市長への提言書(最終案)について確認し、最終的な修正加筆を行う。

(委員) 全体的に「いただきたい」「思います」という言葉を「してほしいと思う」「考えます」「要望します」等の強い表現に変えた方がいい。

2頁～ 1. 第3次日野市農業振興計画・後期アクションプラン検証の結果報告 について

(委員) 現在家族経営協定を結んでいる5件の内訳を教えてください。

(事務局) 回答※個人名のため削除

(会長) みちくさ会の会員数は増える可能性はあるのか?

(事務局) 現在会員14名準会員5名、新委員への声掛けもしている。また、新規就農者の女性にも声掛けしている。

(委員)

3頁の剪定枝チップ、落葉等の堆肥化が未実施になっている。都内の放射能測定値は、概ね基準値を下回っている。然るべき測定を行えば再開できると思われるが現状はどうか?

(事務局) 東日本大震災後の放射の関係で停止していたが、緑と清流課によると現在公園内から出た

ものを公園へ返すことは再開している。牛ふん利用も含め落ち葉利用については関係課と調整し次期計画へ盛り込んでいきたい。

(会長) 6 頁の東京エコ農産物認証制度認証取得農家数は現在何件か？次期計画では数値目標を掲げるのか？

(事務局) 令和 4 年度現在で 23 件そのうち 1 件が新規取得。農業者アンケートでは関心が低い項目と結果が出ているが、次期計画でもアクションプランで数値目標を設定していく。

9 頁～ 2. (仮称) 第 4 次日野市農業振興計画 策定に向けた提言 (案) について

1 生産緑地の貸借と担い手(新規就農者)への支援

(委員) 親元就農者は引き継いだ土地があるので、貸借が必要になるのは規模拡大を目指す農業者だ。文章をそのように直した方がいいのではないか。(委員) 東京都の振興プランで各区市に生産緑地バンクを作ることを進めている。実際に農協と農業委員が情報共有して貸借のマッチングの仕組みが動き始めている区市もあるので、生産緑地バンクは非常にタイムリーな内容だと思う。

(事務局) 提言に入れるには時期尚早なので、アクションプランの段階で入れていきたい。

2. 環境に配慮した農業への支援

(委員) 市内養鶏場の鶏ふんは土が固くなる成分が入っているという情報があった。市内酪農家は夏場に国立市の農家に牛ふんの処分を頼んでいる。市内に牛ふんの処理ができる場所があれば助かると言っていた。八王子の農家から商品として牛糞を購入している。牛糞は高温処理で殺菌が必要なので、そのための場所が必要だ。

(事務局) 鶏ふんに入っている成分とは鳥インフルエンザ防止剤ではないか。提言書では、牛ふん、鶏ふん、米ぬか等を大きな意味で一つにまとめ、施策としてアクションプランの段階で展開すればいいと考える。

3 DX 技術の活用・普及やスマート農業等新技术導入等の支援

(委員) この提言書は公表するものか？(事務局) HP と、次計画の冊子に掲載する。

※以下は試験的な事業のため、削除してほしい。補助事業の活用を周知という文がおかしい。「国の補助」は該当しないので整理が必要だ。既存の省力化技術とあるが、それ以外にも沢山あるので整理が必要だ。

4 情報発信や活用で地産地消のさらなる推進

(委員) ※以下は具体的な事業名を掲載してはどうか。

5. 女性農業者の活躍への支援

(委員) 「農業経営全体」を「農業全体」にしたらどうか。(事務局) 前回の話のなかで 6 次産業以外にも広く参加をとという意味で「経営」とした。(委員) 「農業経営」という表現とすれば「家族経営協定」とも結びつく。(委員) 未来の計画への提案であれば「経営」に携わる女性も増えてくると思う。

(事務局) 「農業経営全体」を「農業経営」とする。

11 頁 おわりに について

(事務局) 委員から農業者が運営している体験農園の現在の開園数について質問があったが、記載のとおり 4 件。今後は積極的に増やしていきたい。(委員) 体験農園は農園主が指導しなければならず向き不向きがあるのではないか。(委員) 東京都農業会議の体験農園園主会では勉強会なども行っているので、興味のある方は活用して頂きたい。(委員) 援農ボランティアの人数について 10 年で 100 名

と書いてあると少なく感じる。年間で 100 名活躍しているという表現に変えてほしい。(委員) 現状として若い人や女性が増えている事も報告してはどうか?(委員) 東京都の農業振興財団の広域援農ボランティアもここで大幅に増え、登録者数 1700 人程となった。年齢も 50~60代よりも30代が増えている。(事務局) 今年度第19期生は女性の方が多くなった。人数や表現について対応する。(委員) 法律の表記を統一する必要がある。(事務局) 対応する。今日以降修正をしたものを提出前に会長が確認する。

3. 閉 会資料No.② 今後の予定の確認(事務局)、閉会の挨拶(都市農業振興課長)